

梅鶯仏教壮年会報

第170号
2021年
5月16日

法輪寺永代経法要

日時 6月5日(土)
10時 日中法要

お説教

講師 石原教人師

野洲組 聞光寺 住

職

本願寺布教使

※本年度はコロナ感染予防のため午前中のみの修業とさせていただきます。

仏壮例会

五月三十日(日)

午後五時より

お勤め

法話「愚者のよろこ

び」

就任のご挨拶

新会長 北村新一

郎



令和3年3月2日の総会におきまして、本年度からの梅鶯仏教の会長をお引き受けすることになりました。その器ではございませんが、皆様方のご指導、ご協力をお願いいたします。どうぞよろしくお願います。いまして、ご参加もよろしくお願います。令和2年度の研修旅行を振りかえり、令和2年10月5日から6日の日程で、再開された本願寺念仏奉仕団としての参加になりました。仕団の皆様、熱意を強く感じました。二日目早朝より、御影堂にてのご晨朝の後、帰敬式を三名で受けました。式は約1時間で、ご門主様はじめ20人ほどの僧侶の霧方々のお世話で、厳かなる雰囲気の中で拝読の任を賜りました。

「阿弥陀如来のご本願という、確かな生きる依りどころに出遇えたことは、まことに大きな喜びです。この上は親鸞聖人があきらかにされた真実のみ教えを聞き、お念仏を称えつつすべての人が、心やすらぐことのできる社会の実現に努めてまいります」

浄土真宗の門徒としての自覚を新たにし、心新たに祈念仏申す人生を送り続けると誓って参りました。

門徒として新しい一歩を踏み出せたと喜んでおります。このような機会を頂いたのも仏壮へ入会させて頂いたおかげだと感謝いたしております。仏壮の活動を通して、新しい出会い、感動を、皆さま方と楽しんでいます。コロナ下ですので無理のない方法で活動を続けたいと思います。皆様方におかれましては、健康第一にお過ごしください。

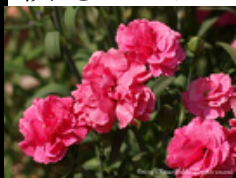
題材法話

「浄土真宗のみ教え
今ここでの救い」 ⑭

＊拝読の浄土真宗のみ教えを20頁お読み下さい。

浄土教といえ、この世でのいのちを終え、た後に、そこで救われる教え、というイメーじが強く、仏教は死んだからは、こと、お寺参りはまだ先」だと思います。

確かに平安時代までの浄土教は、臨終来迎といいい、臨終に多くの仏や菩薩が迎えに来、て、手を取ってお浄土に連れて行って、そのために裕福な貴族達は生きたり、仏塔を建したり、善根を積みました。藤原頼



本来すべてのものを等しく救おうとされるのが阿弥陀さまの本願のはずですが地位も財力も知識も持ち合わせしていない人々は見放されてしまうことになりす。

また臨終に往生が決まるのであれば臨終のあり方が問題となりま

す。

病床で苦痛のうちに息を引き取る人もあれば、不慮の事故、自然災害などによつて全く予期せず無くなる方もあります。死の縁はまちまちなのに、その死に様によつて浄土往生に差が生じることになります。

そういったこれまで浄土教の教えの体系を大きく転換され、この矛盾を解かれた親鸞聖人です。

○まことの**お念仏**すなわち、南無



のらかにしてくださった。お念仏がこぼれ出た時
 すでに浄土往生が定まり、仏となることが決
 定されてゐるのである。臨終を待つことな
 り、平生のうちに浄土往
 くが平生のうちに浄土往
 生が確定するのである。て、幼子が旅先で疲れ果
 われて帰ることに背負
 ました。父親は途中で
 重いからといつて落と
 すことはありません。わが子を必ず家まで連
 れて帰るといふ確かな
 思いが備わつてゐるか
 らです。

幼子は、まだ家には
 帰つていませんが、父
 親に背負われた段階で
 間違ひなく家に歸りつ
 間違ひなく家に歸りつ
 く身に成つてゐます。ま
 た家に歸りつゝ、に、眠つていゝ
 きていようと関係なく、く、父親に降ろし



ひとたび撰め取つた
 ならば、決して捨てる
 ことの無い阿弥陀さ
 ま。いまここに確かな
 救いが届けられ、私た
 ちがいのち終える時、
 どのようになつてい
 こうとも、間違ひなく
 お浄土へと導かれるの
 です。
 お釈迦様は数十年前
 に渡り、仏法を説かれま
 したが、仏法をお説き
 になつた対象者はけつ
 して亡くなつた人では
 なく、今、現に社会生
 活を送りながら、苦し
 みや悩みを抱えている
 人たちに對してであり
 ました。
 浄土真宗は、如来の
 本願に出あえたよろこ
 びとともに人生を歩
 み、そしてさとりの方
 界へと導かれていく教
 えです。
 お念仏をいただく人
 生は迷ひの中にいな
 ぐ、阿弥陀さまや諸